

(様式1)

推 薦 事 例 の 概 要

島根県 (農林水産総務課)

県名・所在地	集団・地区名	規模・性格等	総人口及び農(林、漁)業就業人口 (総人口に対する割合)	総世帯数及び農家数 (農家率)	農業生産の概要 (主要作物、農用地の利用等)	地区の特色	所 見
島根県	「久見区」 隠岐の島町久見 山間農業地帯	(集落数 3) ・地縁的な集団	総人口138人 農業就業人口 30人 21.7% 基幹的農業従事者 2人 1.4% 認定農業者数(うち法人) 1人(1法人) 新規就農者(最近5年計) 0人 新規学卒0人 離職就農0人(40歳未満) 離職就農1人(40歳以上) 新規参入0人 女性の参画 0人 認定農業者数 0人 農業委員数 0人 農協役員数 0人	総世帯数 68戸 農家数 20戸 (29%) 販売農家数 8戸 (内訳1) 専業農家 3戸 (37.5%) I 兼農家 0戸 (%) II 兼農家 5戸 (62.5%) (内訳2) 主業農家 1戸 (12.5%) 準主業農家 3戸 (37.5%) 副業的農家 4戸 (50%)	主要作目の生産概要(面積、生産額) 水稻 8ha (800万円) 野菜類 8ha (100万円) 畜産(和牛) 9頭 (300万円) その他 0ha (0万円) 農家1戸当たり農業産出額 150万円 専業農家1戸当たり農業産出額 400万円 農用地の状況 耕地計 20ha 田 8ha 畑 12ha 樹園地 0ha 採草放牧地 10ha 耕地率 2.9% 農家1戸当たり農用地面積 2.5ha	(1)むらづくりの背景・動機 久見や竹島地先での採貝藻漁業で賑わっていた久見集落は、経済の高度成長に伴う出稼ぎや若者の流出などの影響により、他地区に先駆け高齢化が進み、集落崩壊の危機を迎えていました。そうした中、集落に残った後継者や女性達が、所得の確保などを目的に足元にある海や農地、人、伝統文化などの地域資源の積極的な掘り起こしに立ち上りました。また、「誇りの持てる暮らし易いむらづくり」に向け、久見区の役員を中心に話し合いを積み重ねてきました。 (2)むらづくりの内容 ①生産面における取組状況 小規模な農林漁家が中心で、しかも農林漁業の情勢も厳しい中、集落に残った後継者や女性達を中心に、圃場整備の実施と1集落1農場の実現、地元農水産物の加工・販売、他産地と差別化を図った藻塩の製造と異業種との協働による新たな物づくり、“カナギ漁”後継者の育成活動、沿岸資源(藻場)の保全を目的とした森づくり活動、農地や農村環境の保全などに創意と工夫を凝らしながら取り組んできました。 この結果、生産条件が厳しく小さな集落にも関わらず、所得や就労の場の確保に繋がると共に、その取り組みは隠岐の島町に留まらず他市町村のモデルにもなっています。また、将来にわたり継続性のある体制作りのため、農業や林業、加工の分野で3つの法人を設立するなど全国にも類を見ない取り組みが実践されています。 ②生活改善の取組状況 住みやすい生活環境の整備に向け、住民との利害の調整や合意形成を図りながら集落排水や道路・河川の改修、漁港の整備など社会資本の整備を進めてきました。特に集落排水は、隠岐郡で初めての取り組みで郡内の先進事例になりました。 また、集落に伝承されてきた久見神楽や星祭り、古典相撲などの行事も住民の総参加のもとに脈々と受け継いできました。こうした行事の継承を通じ住民相互のコミュニケーションの増進に寄与しているだけでなく、地域に対する“誇り”と“連帯感”の醸成に繋がっています。	久見のむらづくりの特徴は、新たなむらづくり推進組織を立ち上げるのではなく、伝統行事の継承を通じて、足元にある地域資源を大切にする“心”が世代を通じて脈々と受け継がれていることです。特に、任意の3つの生産組織を法人化した取り組みは極めて高いモデル性が認められます。 近年、地域経済の縮小が進み、都市との格差是正が新たな課題として浮上し、その対策やアプローチ手法が模索されている現在、久見のむらづくり手法は、産業振興や地域振興を進める上で多くの示唆を与えていると思料されます

林業及び漁業は別紙資料に記載。